

第20回

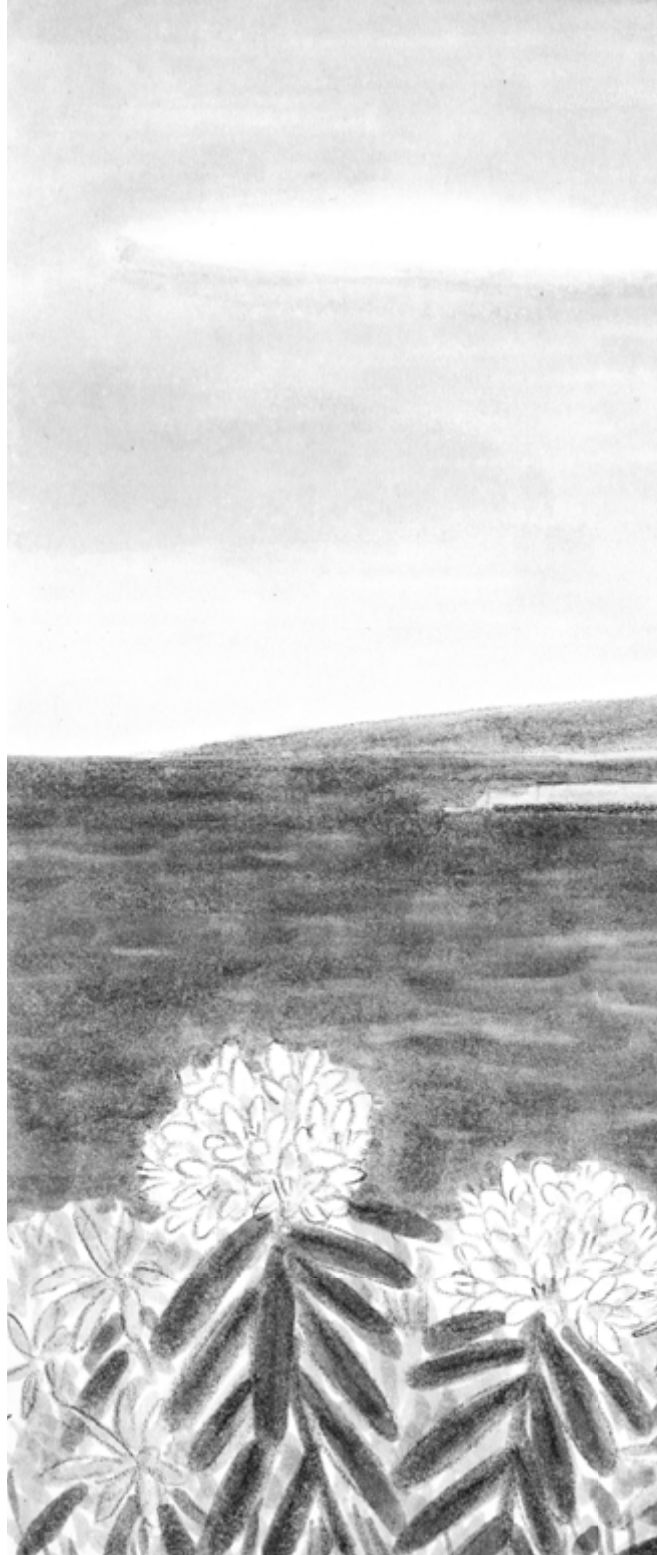
海岸線にそびえる 10万年前から 活動している火山

国道5号を南へ南へ。車を走らせていると、海岸線の向こう側に突如として山がそびえ立つ。「なんと大きな山だろう」と思い「どうしてこんな海のそばに」とも思った。私にとって印象的な駒ヶ岳の風景は、山と海が接近していて何かわくわくする風景なのだ。その風景は道南に向かう時の楽しみとなった。

火山というか山は海岸から離れた内陸に位置しているものと、何となく漠然と思っていたからなのかもしれない。考えてみたら日本には火山や山で島ができるところもたくさんある。そう思うと海と接近したところに火山があってもおかしくはないのだ。この駒ヶ岳も十勝岳や有珠山などと同じ活火山で「常時観測火山」だそうだ。ついでに紐解けば、何と10万年前（3万年前の説も）から活動が始まり、4万年前の活動で山の形ができたそうだ。何度も噴火が繰り返され、近年にも水蒸気噴火などがあったが、そのおかげで、見る角度で姿が変わる魅力的な山が生まれた。

火山の周りにはとても自然豊かな地形が生まれる。駒ヶ岳も例外ではなく、南側に大沼があり、雄大な風景を生み出している。きっとエネルギーの集まる場所なのだと思う。そんな場所だから、幾度となく災害にあってきただろう場所だとしても、人々が住み続けるのかもしれない。昔から災害の多いこの国の人たちは暮らし方や様々な工夫を凝らしながら、そしてしっかり備えをしながら暮らしてきたに違いない。

今は世界中が苦しむこのコロナ災害を、私たちはどう乗り越えるべきか、途方に暮れながら思索してしまう。しかし、できるだけ備え（予防）を怠らず、やっぱり楽しく笑顔で暮らすべきと、眉間によったシワを伸ばすのである。コロナがおさまった後にはよりよい世界になっているはずと思いながら。



すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？ くだもの」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。

